

【団体名】国立大学法人 島根大学

協力機関 島根県教育委員会・鳥取県教育委員会
島根県各市町村教育委員会・鳥取県各市町村教育委員会
対 象 者 島根県・鳥取県を中心とする学校教職員

モデル開発概要

現場における課題

- ◆ バランスの取れた資質能力を向上するためには、多様な研修主体による研修機会の整備が求められるが、教員免許更新制の廃止に伴って、大学が主催する研修の受講機会が大幅に減少している状況にある。また、教師の多忙化等による研修時間の確保が難しい状況にある一方で、教師は常に学び続けていくことが必要であり、主体的な学びの姿勢が求められている。

モデルの概要

【事業①】研修開発

「しまだい学校教員研修」、「現職教員研修」、
「若手教員支援セミナー」、「附属学校園教科等研修」の開発・実施

【事業②】効果検証

研修プログラムの効果検証及び研修実施上の課題の析出

【事業③】受講モデルの確立

地方圏の教師のバランスの取れた資質能力向上に資する
学びのモデルの構築

【事業④】連携・協働による研修の普及

山陰両県教育委員会との連携・協働、
教師の学びのあり方についてのリーフレットの制作・配布

活用する技術・ツール等

- 研修受講後のアンケート調査
- 島根県・鳥取県学校教員を対象とした質問紙調査

高度化に資する取組

【事業①】研修開発

- しまだい学校教員研修：教育関係者全般を対象に幅広い資質能力の向上を目的とする研修を1年間で27講座開設した。
- 現職教員研修：中堅教員（ミドルリーダー19名）を対象に、ミドルリーダーとしての資質能力の向上を目的とする前・中・後期計9日間の長期研修を実施した。
- 若手教員支援セミナー：若手教員を対象としたネットワークの構築及び指導力向上を目的とする年2回のセミナーを実施した。その他、島根大学卒業新卒者（対象教員17名）支援のための学校訪問を行った。
- 附属学校園教科等研修：幅広いキャリアステージを対象に、授業力の向上を目的とする研修を1年間で26講座開設した。

【事業②】効果研修

しまだい学校教員研修の参加者を対象に、研修実施後アンケート（N=189）を実施し、研修目的の達成度を評価した。

【事業③】受講モデルの確立

島根県・鳥取県から抽出した学校教員を対象に質問紙調査（N=1316）を実施し、学校種・キャリアステージ・教員養成課程・労働時間の観点から、研修の受講状況等に関する分析を行った。

【事業④】連携・協働による研修の普及

上記の取組を、島根・鳥取両県教育委員会との連携のもとで実施した。事業を総括するシンポジウムでは、学校・大学・教育委員会からの参加者が一堂に会し、教員研修の在り方について協議した。

モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- ✓ 教師が効果的・効率的に取り組むことができる大学の研修（対面型／オンデマンド型／ハイフレックス型）を開発し、提供できるようになる。
- ✓ 多様な研修主体による研修の受講によりバランスの取れた資質能力の向上に必要であるという基礎的な知見は、教師の学びにおける大学の研修の必要性の根拠となる。
- ✓ 研修の受講時間の確保、その背景にある多忙の解消が重要である。